

# Youth Manna

マルコ1:35  
さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2023/7/24(月)

## 1 コリント13章

①愛をイエスと読み替えて読んでみよう。イエスはどんな方が、ノートに書いてみよう！  
②誰かに会う時、何か大切なことを伝える時、奉仕をする時、イエスがいなければ、どんなに有益な働きでも、どんなに楽しくても、どんなに素晴らしい言葉で伝えても、何の役にも立たない。これらのことは些細なことかもしれないが、祈ってそこにイエス様をお招きしよう。

(コラム) わたしの友達には愛さんという方がいて、彼女には信乃ちゃん、希子ちゃんという子供がいます。子供達の名前の由来がこの箇所だと当時から知っていたけど、まさに、愛から信仰、希望が生まれたんだ(13)。神様を愛することから、私達の信仰は強められ、神様の約束に基づく希望が与えられるんだね。

2023/7/25(火)

## 1 コリント14:1-19

昨日の箇所で、賜物を真に生かすものが愛であることを読んだね。1節でも、私たちが追い求めるべきものは愛だとパウロは語っている。続けて、預言することを熱心に求めるように勧めているね。2-4節を読んで、異言と預言の違いについて聖書のことばからまとめてみよう。

私たちは御霊の賜物を熱心に求める必要がある。そして大事なことは、自分はなぜそれを求めるのかという心の動機の部分だ。最初に書かれていたように、互いに愛し合う心から、賜物が豊かに与えられるように求めていこう！

2023/7/26(水)

## 1 コリント14:20-40

コリントの教会の人たちは、行いにおいて悪かったのに、その異言の賜物のゆえ自分たちが霊的に優れていると考えていたようである。また彼らは、異言が教会の外部の人たちに対しても神の臨在のしるしとなると考え、一方で、預言については低い評価をしていた。

パウロは、イザヤ書を引用しつつ、事實は逆だと論じている。異言は、それを聞いた信じていない人々が神の働きを知るためのしるしであり、預言は信じていない人たちが教会の集まりにおいて神の臨在をおぼえるしるしである。

異言も預言も、教会の成長に役立つものであるが、我先にと語るなら混乱をもたらすことになる。「すべてのことを適切に、秩序正しく行」うことを心がけたい。

2023/7/27(木)

## 1 コリント15:1-11

1v. 「兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。」  
改めて知らせたのは、かつて拠っていたはずの正しい福音が歪められてしまい、せっかく与えられていた信仰が台無しになってしまう危険があったからである。  
2v. 「この福音によって救われます」とある。「救われます」は文法的に継続の意味があり、「救われ続けているのです」を意味する。

私たちの信仰は、どこから来ているのか、何に動機づけられているのか？それはキリストの十字架の死、そして復活、それは私たちを罪から救うためというキリストの愛にある。救われ続けるものとして感謝して歩もう！！

2023/7/28(金)

## 1 コリント15:12-19

12vを読むと、コリント教会には復活を信じていない人たちがいたようだね。  
●14vを読もう。パウロは復活がなければ何と何が虚しい、といっているかな？

●復活を信じることは、神には不可能がないことを信じること。最近「これは無理だろうな」「普通にないでしょ」と諦めていることはないかな？イエス様は何と言っているか聞いてみよう。

2023/7/29(土)

## 1 コリント15:20-34

キリストの復活は、クリスチャン全員に復活をもたらし、敵対するすべての勢力と死を滅ぼし、神様の完全な導きによって完成される。

アダムという1人によって私たちはみんな罪を持つものになった。だけど、イエス様が唯一罪のない1人の人としてこの地にきてくださり、信じる全ての人に復活を与えてくださったんだね。

イエス様の十字架の死と復活によって私たちは罪がゆるされているんだ。時には「復活なんてありえない」と言ってくる人もいるかもしれない。でも神さまには不可能もないし、私たちの罪からの救いのために、命をかけてくれたんだ。イエス様の復活をあらためて受け取ろう！

2023/7/30(日)

## 1 コリント15:35-49

コリントの教会では死者の復活を否定する人たちがいた。パウロは自然界にあるものとの類比からこのことを論じている。例えば植物界においては、種が蒔かれ、土に埋められ、死ぬことで初めて穀物として生まれ変わる。また、動物界において生物の肉体がそれぞれの種類に応じて異なっているように、「天上のからだ」と「血肉のからだ」は異なっていること、そしてそれは、「最後のアダム」であるキリストによることである。最初の人アダムは「生きるものとなった」が「最後のアダム」であるキリストはいのちを与える息である御霊となられた。この方において御霊をいただき天に属する者とされた私たちは、この「天に属する」方に似ており、やがてこの方に似た復活のからだもいただける。

「血肉のからだ」の限界と卑しさ、弱さの中に置かれた私たちにとってそれは、何という大きな励ましであり、希望だろうか。キリストにあっていただける、復活のからだに心から感謝しよう！